

1. 高地居住

津波の到達しない場所に住む。
 これが被害を無くす基本である。
 しかし、漁業者は海辺を好み、
 また、山が迫った所では他に居
 住適地が少ない場合が多い。

1

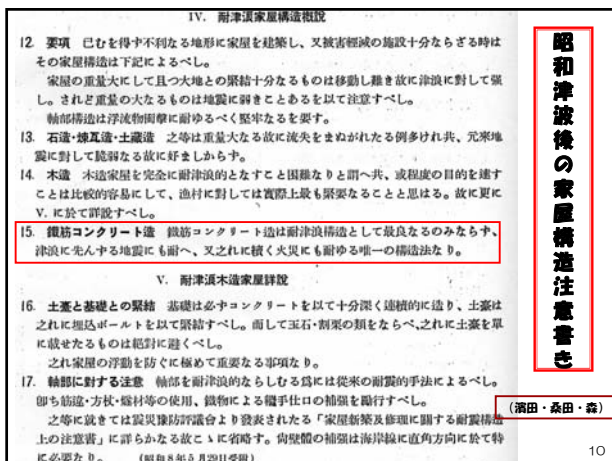
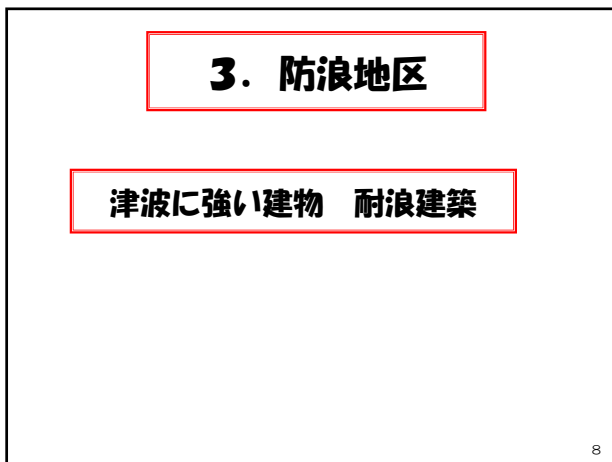


2. 地盤高上げ

近くに高台が無いとき、
 緊急避難地として高台を作り、
 或は、住宅地として地盤高を嵩上げる。

4





4. 防潮林

防潮林は有効なのだろうか。

- (1) 漂流物を阻止して、背後の家屋を守る。
- (2) 流れに抵抗し、流速や浸水位を軽減する。
- (3) 津波に流される人がすがりつき、助かった例は多い。
- (4) 砂丘が育成され、その高い地形が自然の防潮堤となる。

一方、

- (1) 大きな津波には無力である。
- (2) 切断されると危険な漂流物になり、破壊力を持つ。

12

防潮林の効果



昭和三陸大津波の後、本多静六、今村明恒らが青森から宮城までを4班に分かれ、効果を調査するとともに、防潮林造成計画を立てた。

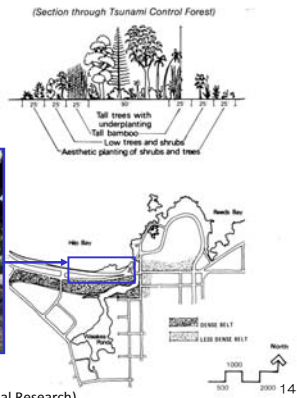
三陸地方の津波防潮林はこうして作られたものが多い。

(三陸地方防潮林造成調査報告書、農林省)

13

ハワイ・ヒロ 防潮林造成計画

Figure 4.7 Configuration of Tsunami Control Forest



(Bay Front Av.の防潮林)

(Urban Regional Research)

14

5. 土地利用規制

災害は滅多に発生しない。過去の記憶が薄れ易い。

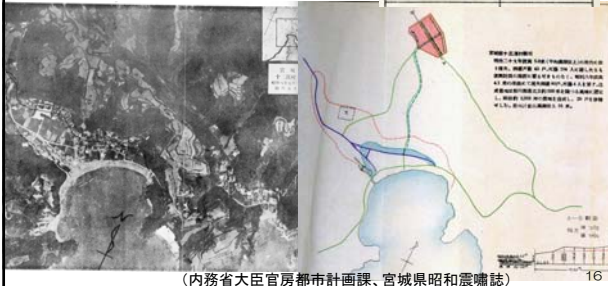
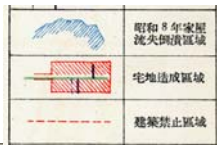
堤防などが建設されると、その背後地には「もう津波は大丈夫」との安心感が広がる。

こうして、本来危険な場所が無防備に開発され、次の津波の犠牲になる。

入り込むなら、それ相應の構えが必要だ。洪水・高潮・津波に備える土地利用規制の例を紹介する。

15

宮城県雄勝町相川 宅地造成と建築禁止区域



(内務省大臣官房都市計画課、宮城県昭和震害誌)

16

相川 造成地と旧集落位置



17